

20歳で2級建築士になりたい

「もしも人生がもう一つ用意されているなら、芸能人になって世界の建築物を紹介する旅番組をやってみたいですね」とユーモアを交えて明るく話すのは、学生委員長会長の大久保さん。「高校時代は生徒会会長を務めました、人前で話すのが苦手で話し合いも思うようにできず、悔しい思いをしました」と当時を振り返ります。

その悔しさをばねに、日本工学院では学生委員会会長を務め、『登別地獄まつり』や『わくわく広場のぼりべつ』、『クリーンウオーク』など数多くのイベントにボランティアとして積極的に参加。地域活動に大きく貢献しています。昨年、印象深かったのは就職活動。「自己分析は大変でしたが、



クリーンウオークの様子

工夫しながらじっくり取り組みました」。面接では本音をぶつけることを心掛けた大久保さん。採用先の面接官から「君の面接が一番良かったよ」と言われたときは、「最高にうれしかったです」と満面の笑みです。

学生委員会会長 大久保 公一郎さん

おおくぼ こういちろう
日本工学院北海道専門学校
建築学科2年生。
趣味は音楽と映画鑑賞。
現在は卒業課題の制作に奮闘中。

今後の目標は、「まずは、20歳で2級建築士の資格を取って、大きな仕事ができるように準備したいです」と語ってくれました。

名実ともに日本一を目指す

「来てよかった。また来たいと言ってもらえるような名実ともに日本一の温泉地を目指して活動していきたいですね」と将来の展望を語るのには、『登別観光協会まつりイベント委員会』の飯尾さん。飯尾さんが委員会の活動を始めたのは平成13年。仕事の傍ら、ボランティアで『登別温泉湯まつり』や『地獄の谷の鬼花火』、『登別地獄まつり』などの企画・運営を行っています。

今年、50回の節目を迎える登別地獄まつり。「長い歴史の中で、活躍されてきた先輩方への敬意と感謝の気持ちは大きいです。この節目を次の50年につなげていくための第1回目と捉えて、新しい企画なども立ち上げたいですね」と意欲を見せます。



まつりイベント委員 飯尾 真吾さん

いいお しんご
登別温泉株式会社勤務。
仕事と委員会活動で多忙な日々を送る。
休日は家族団らんでほっと一息。

また、祭り以外でも魅力あるイベントを発信し、「観光客はもちろん、市民の皆さんにも楽しんでもらえるような温泉街にしたいですね」と熱く語ってくれました。



元旦縁起もちつきの様子